

平成29年6月1日

平成29年度現職教研 道徳教育部会

研究協議会

あまし立伊福小学校

1 テーマ

「互いの思いを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成」

—ありのままの自分を表現できる授業づくりを通して—

2 ねらい

現代社会は、情報が氾濫し、自分に必要な情報を主体的に選択する力が必要とされている。また、人間関係が希薄化し、他の人と適切にコミュニケーションする力がだんだんと失われつつある。そんな中でも、目の前の児童には周りとは協調しながらも、自分の考えや思いをしっかりもち、自分らしさを失わず、悔いのない意思決定をしながらよりよい人生を生き抜いてほしいとの願いから本主題を設定した。

「互いの思いを認め合う」とは、立場の違いはあっても、互いの存在を認め合い、相手の思いを尊重しながら対話を行うことである。考えの違いを認め合い、ありのままの自分の本音が受け入れられる経験を通して、自己肯定感の高まりにも繋がると思う。そして、自分を見つめ、善悪を多面的に考察しながら、自分の生き方を問い続けることが、ぶれない自分を築きあげ「よりよく生きる」ことに近づけると考える。

本校では、一昨年度より道徳教育の研究を進めてきた。他者との関わりを軸とした題材の発掘や、読み聞かせとセンテンスカードでの資料の提示などを研究し、授業実践を積み重ねてきた。その中で児童が活発に意見交流をできるようになり、発言する意欲や聴く力が育つなどの成果を得た。一方、課題として、道徳の授業で高められたはずの道徳性が日常の児童の生活に生かされていない、つまり「わかってはいるけれどもやめられない」状況が続いている。それは道徳の授業での話し合いが形式的に流れてしまい、児童が本音で語り合っていないことが原因であると考えられる。

そこで、本年度は、児童が本音で語り合い、授業での話し合いでは自分事として参加し、自分の生き方やあり方を見直す機会となるよう教材の提示の工夫をしていく。また、授業の中で、教師が効果的な繰り返し発問をすることで、話し合いに深まりや広がりをもたらし、より確かな価値観の認識がもてるように導いていきたい。さらに、ワークシートなどでの振り返りをするすることで、自分の心の変容、成長に自ら気づかせ、生涯にわたって自らの生き方を問い続けられる児童を育てていきたい。

3 研究の方法

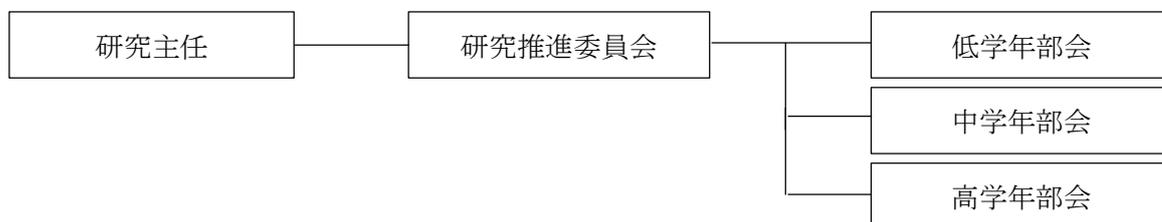
(1) 研究の仮説

- ① 児童が本音で語り合えるような教材を用意し、切り返しの発問を効果的に行えば、互いの思いを認め合えるようになり、自己肯定感が高まるであろう。
- ② 効果的な切り返し発問で多面的に思考させ、自分の成長を感じられるように工夫すれば、他者と協調しながらも自分らしく前向きに生きる児童が育成できるであろう。

(2) 研究の対象

全学年（6年生中心）

(3) 研究の組織



4 研究の手立て

① 教材の開発

- ・ 児童の日常生活に基づいた題材を選定し、自分事として考えられえらるるようにする。
- ・ 正解がなく、葛藤するような題材を教科化し、安心して本音を引き出せるようにする。

①② 効果的な切り返し

- ・ 多面的な思考を促すような切り返しの仕方を工夫する。
- ・ 自分事として捉えられるような切り返しの仕方を工夫する。

② ワークシートの活用

- ・ 心の変容や考えの深まりがわかるような形式にする。
- ・ ワークシートを利用し、自己の成長を振り返ることができるような評価の仕方を工夫する。